



フィグ・ヤーパン通信

第 19 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.19

発行日 2004年7月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

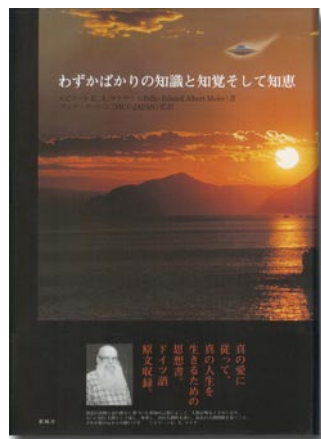
『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』が出版されました

待望の新刊書『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』（原題 Ein Quentchen Wissen, Sinn und Weisheit）が新風舎から出版されました。すでにフィグ・ヤーパンまたは新風舎にて購入可能です。流通の関係で、全国の主要な書店に並ぶのは7月中旬以降になります。このため本書は、フィグ・ヤーパンを通じてご購入されることをお勧めいたします。価格は消費税込みで3150円、送料は1冊340円、2冊450円、3冊590円になります。お近くの郵便局から書籍の代金と郵送料を合わせた金額をお振込みいただきますと、フィグ・ヤーパンから配本いたします。この機会に是非お求めくださいますよう、お願いいたします。なお、インターネットで本の価格と郵送料を計算できる便利な書籍注文のページを開設しました。詳しくは、フィグ・ヤーパンのホームページをご覧ください。

本書は、タイトルでは『わずかばかりの……』となっていますが、実際にはこれとは裏腹に、人生の様々な場面で役立つ思慮深い知恵の言葉に満ちています。ここでは、その中からほんの一部をいち早くご紹介いたします。

教育における愛と調和

子供の教育におけるあらゆる障害や困難や失敗の原因を探すと、教育者や教育方法の不調和や愛情不足に必ずや突き当たる。それによって教育の有益手段、つまり愛と調和が無視され足蹴にされる。だがまさしくこれら二つの価値こそ、子供たちにとって最も大きな意味と重要性を持つのだ。なぜなら愛と調和には、子供がするすべての数え切れない質問や、大小の心痛や心配ごとにとって必要な理解も含まれているからである。そしてまさにこの愛と調和、そして身近に起こるすべての事柄に対する理解は人間に不可欠であり、成長していく人間はそれを自分の中に目覚めさせ、花を咲かせ、様々な形の現象に具現させなければならない。それは、大人が想像するほど難しいことではない。彼らが必要とするのは、自分の内外にある不調和や愛情不足を中和し、自分自身の中に様々な姿の愛と調和と理解を自己教育の形で明示し、その根本的価値を自分自身の中に築いて、身につけることだけである。……



わずかばかりの知識と知覚
そして知恵（新風舎刊）

装丁：A5判 ハードカバー
頁数：512ページ
重量：870グラム
定価：3150円（税込み）
送料：340円

何を為すべきか考える

何か言葉を発したり行動を起こしたりする前には、すべてをよく考え詳細に検討すべきである。その際、自分の言葉や行為または行動が、自分自身あるいは他の人々に喜びをもたらすか、それとも負担になるか、常によく考えなくてはならない。災いをもたらす言葉または行為、災いをもたらす考え、あるいは災いをもたらす行動は大きな苦悩を引き起こす。救済をもたらす言葉または行為、救済をもたらす考え、あるいは救済をもたらす行動は大きな喜び、愛、そして調和を生み出す。それゆえに言葉、行為、考えまたは行動を起こす前には常によく考えるべきである。そして自分自身や他の人々に負担を掛けないことだけをすべきである。……

真の知識

書物から得た知識や学校で習った知識だけでは真の物知りや賢者にはなれない。なぜなら真の知識は、その性質と特性から言えば、創造・自然の法則と掟に従ったものであり、また生命の趣意に則ったものであると同時にそれを達成することを目的とするからである。それは真の、生活にとって重要な比較的完璧な知識であり、条理に適った真実性という形を通じて確信に導くものである。そしてこの知識のみが進化的に考え行動する人間を喜ばせ聡明にし、また最終的には意識や本質の深奥まで充足させる。……

対人関係

人間は対人関係に無関心であってはならない。人を避けて会わないようにするのは可能だが、少なくとも人と接した瞬間、または交際し関係を持った瞬間、対人関係を実践する義務が持ち上がる。これはつまり、徳を与え、その真価をもたらさなければならぬことを意味する。気持ち良く好意的で親切であることと並んで、礼儀正しく畏敬や敬意を失わなければならないことが必要であるが、これを同胞に表面的に示すだけでなく、自分の内面においても人格や性格の重要な要素とすべきである。真の対人関係を保つとは、これらの人間関係の価値を単に外部に向かって示すだけでなく、自分の思考や感情の中にも現わして人格や性質をもそれによって定めなければならないと

いうことである。つまり対人関係における価値は、まず第一に自分の内面で慈しみ育てるべきであり、人に出会わないときでも、また好感の持てない人に出会ったときでも常に保たなければならないのである。隣人によって損害や災いなどがもたらされたときでも、またある人間に対する自分の尽力がすべて無駄骨に終わったことに気づいたときでも、この努力を怠ってはならないのである。常に人間は人間として尊敬され処遇されねばならず、決して思考や感情あるいは行為や行動のみによって人間を評価してはならない。すなわちこれらのことは、生活態度や性格や人格に欠陥があり、異議を唱える必要があり、そのためそれを是正する措置を講じる必要がある人間の場合のみ重視されるべきである。しかしこのようなことは、畏敬と尊敬、つまり真の対人関係の価値を与える対象としての人間の本質には当てはまらない。真の対人関係は、相互のコミュニケーションや相互の物質給付などにとどまらず、同胞の人間の本質に対して畏敬と尊敬という主要な価値を与える場合にも存在する。……

その時がいつか来るなら

人間が互いに誠実な隣人愛をもって親しく交わり、互いにも自分自身とも心から和解するときがいつか来るなら、憎んだり憎まれたりする世界で混乱に陥った思考や感情を真摯な愛で掴み取り、心に留めるときがいつか来るなら、人生は喜びに満ち、思考や感情は真の愛と自由と平和と調和で活気づき、真の生命への望みはすべて満たされるだろう。それが起こるのは、人間が本当に賢く思慮深くなって、より高いところを求めて努力することに敬意を表すようになったときだ。至るところですべての人間が幸福に微笑みつつ暮らすときだ。たとえそれに値しない人間が少数いるとしても、義務感や^{いんぎん}慫慂な虚偽からではなく、真の隣人愛から、そして人間から人間への真の友情や好意から笑顔を返すときが来るだろう。つまりもはや内面の憤慨を覆い隠す必要もなくなるから、それは空虚な決まり文句ではなくなるだろう。思考と感情は錯綜した状態ではなく、率直さと誠実さ、したがって真の生命という価値を呈するようになるからだ。……

Q&A 質問と回答

□読者の質問

「セミヤーゼ」とは誰ですか。

□ビリーの回答

セミヤーゼは現在（1996年）約350歳で、プレアデス/プレヤール星の宇宙船団司令官 JHWH プターの娘です。JHWH（発音：イシュヴィシュ）は称号で、地球の言語に翻訳すると「英知の王」を意味します。セミヤーゼはエロ・イシュリシュ、すなわち準英知の女王の称号を持っています。（プレアデス/プレヤールでは王という概念は位階とは関係なく、到達した霊・意識の進化段階を表現したものです。）ビリーが初めて会見を持ったスファートの孫娘であるセミヤーゼには、ユカタンという名の兄弟がいました。またセミヤーゼは7年間結婚していました。彼女の夫は約220年前に、ある調査旅行の途中、宇宙船の制御障害のために太陽に墜落して命を失ってしまいました。

セミヤーゼは1965年2月から1973年6月まで、ダル宇宙に住むアスケットの民族のもとで過ごし、その間我々の宇宙とは全くコンタクトがありませんでした。1973年6月にダル宇宙からエラに帰郷したあと、1973年7月に地球にやってくる、それ以前から地球で引き受けていた使命を引き続き遂行しました。

その後、1975年1月28日にビリーと最初のコンタクトを取っています。

セミヤーゼはあらゆる地球の言語のうちドイツ語しか話せず、1984年11月まで地球に滞在していた間に他の言語を学ぶこともありませんでした。

彼女の活動範囲はヨーロッパ地域に限定されており、何らかの案件に介入したり、現存する他の2つのプレアデス系グループが活動する領域、すなわちアジアとアメリカでコンタクトを取る権限は全く与えられていませんでした。

1977年12月15日、セミヤーゼはセミヤーゼ・シルバー・スター・センターで生命にかかわる事故に遭い、医師の治療を受けて回復するためにエラ



に運ばれました。彼女は1978年5月20日（第107回会見）に再び地球に戻り、1981年3月26日（第144回会見）までビリーとコンタクトを取り続けました。

1981年3月終わりから1984年1月終わりまでセミヤーゼは別の使命のために地球を離れました。

1984年2月3日（第191回会見）、セミヤーゼはビリーと最後のコンタクトを取りました。

1984年11月初め、セミヤーゼは1977年12月15日の事故の後遺症で脳虚脱を患いました。彼女は直ちにダル宇宙に住むアスケットの民族のもとに運ばれ、そこで友人たち（ゾナ/ゾネールの民族）の助力により再び健康になりました。プターの説明によると、脳や、虚脱によって失われたすべてのPSIパワー、諸能力、記憶などが完全に回復するには、70年かかると予想され、その間セミヤーゼはダル宇宙にとどまることになっています。（しかし、プターの約束によると、ビリーは近い将来一度セミヤーゼを訪ねる機会が与えられるでしょう。）

地球上に全部で3つあるプレアデス系グループ（ヨーロッパ、アジア、アメリカ）の中で、セミヤーゼという名前の人物、すなわちビリーとコンタクトを取ったヨーロッパグループのセミヤーゼはただ一人でした。

第304回会見記（2001年6月25日）より

ビリー・マイヤーへのインタビュー — 霊の教えについて —

創造は私達人間そしてその他の生物においてどのような役割を果たしていますか。

人間、その他のすべての生物にとって、創造は非常に重要な意味を持っています。あらゆる生命形態はそれ自身の内に創造の微小部分を有しており、それによって生物はおよそ初めて生きることができるのです。自らの内にこの創造霊の微小部分を有していなければ、いかなる生命形態も生きることができません。というのは、この創造霊は本来の根本的な生命エネルギーだからです。しかしこの生命エネルギーはまた創造自体の全エネルギーに依存しています。創造自体は微細なエネルギー形態、いわゆる宇宙の生命エネルギーを全宇宙に拡散させます。宇宙の生命エネルギーは創造霊の微小部分に受容され、それによってこれらの微小部分が生きのです。したがって、この宇宙の生命エネルギーは、すべての生命形態に宿っている創造霊のあらゆる微小部分が生きるための、いわば創造的栄養と見なせます。このような形でどんな生命形態も創造に依存していますが、だからといって、例えば人間がどんな風にして生活を形成し、営み、生きなければならないといった規則が創造に由来するということは全くありません。創造は自らの法則と掟によって進化の目標とすべてが関係する大まかな条件を設定するだけです。そしてこの目標とは、人間は進化し、したがって霊および意識の面で可能な相対的完全にまで高度に発達して、いつの日か創造自体の中に入り、これと一つになることです。そうすることによって創造自体も進化するのです。

創造が何らかの生命形態に対して規則を設けることは決してなく、したがってすべての生命形態はそれぞれの裁量で生き、振る舞うことができるのです。しかし、すべての原因は特定の結果をもたらすという因果律に従い、ある特定の生き方からはある特定の結果が生じるという法則と掟、つまりガイドラインが存在します。ですから、各々の生命形態はそれら自身が欲するように生きることができ、そのことについて自分で決定するか、または何らかの仕方

で法則と掟に適合するというのが創造的自然なのです。ある生命形態がその生活をどのように営み、形成し、生きるかに応じて、そこから極めて特定の結果が生じますが、それに対して当の生命形態、とりわけ人間はあらゆる点で自分で責任を負わなければならないのです。

創造的自然の法則と掟は、肯定と否定という二つの因子に基づいて構成されているので、宇宙全体でもすべてはこの形式で秩序づけられています。創造自体は、自然と呼ぶこともできますが、どのように生活を形成し、営み、生きるべきかという規則を決して作りません。これは生命形態の、したがってまたすべての人間の責任に委ねられています。したがって各々の人間もまた、創造的自然の法則と掟を遵守してそれらが利益と進歩をもたらすようにするか、またはそれらを犯して害悪を被るかを自分で決定するのです。つまり、創造は人間の何らかの行動に対していかなる責任も負わず、すべて人間のみが常に自分で責任を負うのです。この場合、この人間がどのように考え、感じ、案出するか、また何をなし、企てるかは全く関係ありません。

そのような創造的自然の法則と掟は、非常に具体的に言うとどんなものですか。

最も重要な法則の一つは、たとえば人間が犯す誤りは断罪すべきではないということです。なぜならば、人間は誤りを犯すことによるのみ進化できるからです。つまり人間は、何事かを学ぼうとするなら、誤りを犯さなければならないのです。それゆえ誤りを犯したら、人間はこの誤りを遅かれ早かれ認識し、それについて考え、これを取り除きます。そうすることによって人間はたいい賢くなり、誤りを、少なくとも同じ形では再び犯さなくなるのです。それによって人間は進歩を達成します。しかしまたこのことから、誤りを認識し、そこから成果と進歩につながる新たな結果を得るためには、人間はすべての事柄について徹底的に考えなければならない、ということが導き出されます。そして、成果と進歩

を達成するために、まさにこのように考えることが、創造的自然のもう一つの重要な法則であり、それなくして進化は不可能です。

それゆえ法則は、取り消すことのできない確定した規定であり、何らかの形で害悪が生じないようにしようとすれば、これを履行および遵守しなければならないのです。これに対して掟は法則とは異なり、単なる勧告に過ぎません。それは何かをするように、またはしないように特定の方針を示すもので、その結果として善または悪あるいは肯定的なものまたは否定的なものが生じます。創造的自然の掟とは、たとえば次のような勧告です。

「墮落した形で殺すべからず。」

「創造との絆を破るべからず。」

「他人の物を盗んだり奪ったりすべからず。」

「真理を呪うべからず。」等

地球上で人間はどのようにして生まれたのですか。人間の起源は本当にサルですか。

ここで作り出された純粋な地球人は地球の惑星進化の産物です。最初に最も原始的な植物形態、地衣類等が生まれ、それらから分離した物質がアミノ酸に変化して、新しい化合物が作られました。そして再びこれらの化合物から高次の植物形態が生まれる、というように進化の道を辿っていきました。そこから最後に別のアミノ酸化合物が生み出され、そこからより高次の生命形態、すなわち動物相の生命形態が作り出されました。これらの生命形態はますます高度に発達していき、植物と同様に生成と消滅を繰り返しました。動物相の生命形態は生まれては死に、それらの死骸や変成物から新種のアミノ酸化合物が発生し、それが最後にはヒト科の生命形態、すなわち人間の系統へとつながっていくのです。しかしこれはそもそもの初めから純粋な人間だったわけではなく、種々の系統の元になる形態でした。実際にも、そこからさまざまな系統が発展しました。最初のヒト科の生命形態はいろいろな種類に分裂し、そこから種々のヒト科の生命形態、つまり固有の種族が発達しました。基本的な系統は最初から人間でしたが、進化していくに従い大きな違いが現れるようになりました。純粋に動物のままにとどまっ

た生命形態が次第にその種類を増やしていったのに対し、人間の特徴を備えたヒト科の生命形態は分裂したものの、唯一の系統が従来からある自然な形で人間という種族として発展しました。が、なかには別の種類に分裂したものもあり、そこから多種多様なサルが生まれたのです。とは言え、純粋な原始人の間でも様々な相違点が現れ、すでに当時の発展段階についても種々の人種を挙げることができます。この事実はダーウィンの説とは反しています。なぜならば人間はサルから生まれたのではなく、サルが人間から生まれたからです。つまり、人間の原始的な発展の副産物としてサルが生まれたのです。

今日の地球人はどのくらい古くから存在しているのですか。

質問が最初の本当の地球人に関するものだとすれば、その年齢は450万年以上と言えます。しかし宇宙の奥からこの世界にやってきた人間のことを言うならば、年齢は60億ないし120億年の間です。これら地球上の人間は、いわゆる「宇宙の深遠からやってきた旅行者」であり、その故郷の世界は遠く離れた別の星団にありました。この星団もとうの昔に滅び、消え去って、移ろいゆくものの運命を辿りました。「宇宙の深遠からやってきた旅行者」は地球に定住し、地球で生まれついた生物と交わりましたが、大部分はヘノク族の出身でした。ヘノク族は遠い星団から私たちの銀河系にやってきて、大犬座の領域に住みつきました。その後、長い時間を経てからそこを逃げ出さざるを得なくなり、逃亡者としてゾル太陽系に渡り、そこで火星やフェートン星や地球に定住したのです。

人間は1回以上生きるというのは本当ですか。

その通りです。人間は転生、すなわち生まれ変わりの法則に従っています。この事実は、進化できる意識と進化できる霊形態を持つ他のすべての生命形態にも当てはまります。したがって人間の場合は、死んだ後、その霊形態はこの世の物理的な肉体を離れ、あの世の霊領域に入り、再び物質的な肉体に生まれ変わることができるようになるまで、そこにと

どまって学ぶのです。

転生および人生を何度も繰り返す目的は、創造的な性質である人間の霊形態が総意識と共に進化でき、そしていつの日か創造の中へと入り、創造と一体となり、それによって創造自体もまた再び進化するためです。

それゆえ不断の転生は人間に宿る霊、およびそれぞれの人格と本来の意識が形成される元となる総意識における霊の進化に役立つのです。そして霊をその知識と英知と調和において広く、高く形成して、いつか最高に可能な相対的完全性に到達するために、数多くの人生が必要であり、したがって転生もしくは生まれ変わりが必要なのです。なぜならば、ただ一回の人生で霊もしくは霊形態を相対的に完全となる高みにまで上げることは絶対に不可能だからです。このためには数百万回にも達する無数の人生と転生が必要なのです。物理的な人間の肉体から自由になって、肉体のない純粋な霊界に入ることができるようになるだけでも、人間は600ないし800億年を必要とします。これは地球の科学者が宇宙の年齢と称しているものの6ないし7倍の時間です。

ここで一つ明確にしておかなければなりません。人間は転生によって、たとえば動物に生まれ変わることができるかと主張し説明する見解や教えは、絶対に間違っているということです。人間は常に再び人間に生まれます。なぜならば、人間に宿る進化可能な創造霊の一部がそうなるようにしているからです。したがって人間は決して何らかの動物、その他のものに生まれ変わることはできず、唯一人間に、それも原則として常に同じ人種に生まれ変わるので、これに関してはもちろん多少のずれが生じることはあり得ますが、実際に起こるのはごく稀です。しかし、これについてここで説明するのは、長くなりすぎるので控えますが。

同じ理由から、動物もまた決して人間に生まれ変わることはできません。なぜならば、動物の霊形態は、人間の霊形態もしくは霊の場合のように、知識と英知が進化するように作られ、定められていないからです。

転生の主題に関連してカルマという概念も持ち出されます。それについてはどのように考えるべきで

すか。

カルマはキリスト世界における贖罪という宗教的概念と同じく謬説です。カルマの教えに従えば、人間は次の人生で事実上前世の重荷を背負わなければなりません。人間が以前の人生で善かったか悪かったかによって、次に生まれ変わった後の人生が決まるのです。正確に言うと、人間は来世において前世の行いに対する報酬または罰を受けるのです。言い換えれば、カルマとは前世における行為を基準にした人間の転生の形式を意味し、そこから現在の宿命が生じます。単純明快に言ってしまえば、カルマとは人間の現在の宿命は前世の行為によって決まることを意味します。

キリスト教による贖罪の場合は、すべての結果は死もしくは最後の審判による罰または報酬に帰着します。簡単に言えば、信じやすく、キリスト教やその教派の規則や規定を守り、へりくだっている者は天国に行き、それらに反する行為をした者はみな地獄に行くか、煉獄に落ちるか、永遠に呪われて、自分の誤りを洞察して取り除くチャンスを与えられません。

しかし本当の真実は、カルマや罪と償いの教えが説くのと異なります。人間は誤りを犯さずに、進化したり、知識が増えて賢くなったりできません。しかし誤りによって人間はたいい厄害を被り、言わねばそのことによって自ら罰するのです。人間は自分に生じた厄害によりすでに罪を償い、再び誤りや弊害を取り除こうと努めます。そうすることによって人間は同じ誤りを同じ形では二度と犯さなくなります。人間はそこから教訓を引き出し、賢くなります。これは原因と結果の最も単純な原理です。そしてまさしくそれによって人間は進化し、その知識や理解力や能力等を高めていくのです。それによって人間は高次の意識水準に達しますが、その水準は総意識によって来世にも、したがってまた次の転生にも受け継がれます。こうして人間は来世において前世の自分の進歩と意識水準の成果を活かすことができ、前世から何らかの重荷や負担を引きずる必要はありません。つまり、新しい人生は前世からの重荷や負担の上に築かれてはいないのです。というのもそれらは善いこと、悪いことを問わず、すべて

前世で克服されているからです。それゆえ前の人生の事物を新しい人生に持ち込もうとするのは不当であるだけでなく、創造の法則に反するでしょう。しかし、宗教によって不条理にもそれができるはずだと教えられていることは、全くのナンセンスであり、人間の非論理的な思考、思案、そして願望にほかなりません。なぜならば、人間はいついかなる場合も

罰と贖罪を求める復讐の狂気のうちに生きているからです。これに反して創造はそのような振る舞いを知りません。創造は人間のように復讐、罰、贖罪を知りません。したがって創造はこれに関する法則も生み出してはいないのです。

つづく

(出典：FIGUスイス ホームページ)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□第8回全国読者集会のご案内□

前号でご案内差し上げましたとおり、第8回全国読者集会を、10月24日(日曜日)に、川崎教育文化会館において開催いたします。全国の読者の皆様が一室に集まり、出会い、交流が生まれるチャンスです。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

日付 平成16年10月24日(日曜日)

時間 午後1時～午後4時

場所 川崎教育文化会館

神奈川県川崎市川崎区富士見2-1-3

TEL 044-233-6361

(川崎駅東口より徒歩15分、バス水江町行きまたは市営埠頭行き)

<http://www.city.kawasaki.jp/88/88kyobun/home/index.htm>

参加費 300円(当日徴収いたします)

会場を手配するため、大変お手数ですがご出席される方は同封のはがきの出欠欄に印をつけ、8月31日までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。なお、詳しいプログラムは10月1日発行予定のフィグ・ヤーパン通信第20号にてご案内いたします。

□これから出版する本□

ビリーとプレアデス/プレヤール人との会見の記録を集大成した、『プレアデス/プレヤール人との会見記録第1巻(1)』を本年11月に出版の予定です。本書は、近年全面的に改訂され、公開が許された新しい内容も加わり、FIGUスイスから第4号まで次々と出版されています。

FIGUのミッションの礎となった会見では、UF O問題に限らず、環境問題、政治情勢、人類の歴史、そして創造と霊についてなど非常に広範囲で価値ある内容が話し合われています。ビリーの主な会見相手は、スファートや、3ページで紹介したセミナーです。

原書はA4判で508頁に及ぶ大作ですが、日本語版ではこれを5冊に分冊し、その1冊目を11月の出版を目標として、現在準備を進めています。どうぞご期待ください。

□ホームページを改訂しました□

6月14日より、フィグ・ヤーパンのホームページを全面的に改訂しました。多くの記事が追加掲載された他、書籍をお求めの際に送料を含めた金額を自動的に計算できる便利なページも開設しました。是非ご覧ください。また、ご意見、ご感想をいただければ幸いです。<http://jp.figu.org/>



出版物のご案内

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵 新刊!!

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■フィグ・ヤーパン通信

フィグ・ヤーパン通信は 11 号以降無料で配布しております。印刷物をご希望の方は、フィグ・ヤーパンまでお知らせください。

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

7 号 価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

29 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■男と女に対する言葉

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■男と女の違い 男と女の結びつき

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■パートナーシップ

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■昨日、今日、明日の心配に関する考察

価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)

■生と死は互いに切り離しがたく結びついている

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■あえて賢くあれ

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

■プレイヤー人が地球人に望むこと

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 19 号 (無料)

発行日 2004 年 7 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2004 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.